

第6回 みたけ創生有識者会議 概要

とき 平成29年8月23日(水) 午後3時30分～午後5時20分

会場 中山道みたけ館 研修室

出席者(敬称略)

岐阜大学 小林智尚、東海化成工業 黒田晃司、ながたに農園 永谷嘉規

学校法人荻須学園 齊藤公彦ジャーナリスト 柴田永治

行政 総務部長 伊左次一郎

事務局 企画課長 小木曾昌文、企画調整係長 日比野克彦、係員 丹羽英仁、安藤裕之

事業実施部署 まちづく課 まちづくり推進係長 荻曾弘太郎

あいさつ

<総務部長>

- ・お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。本日は、昨年度実施しました地方創生加速化交付金の事業評価と今年度進めている地方創生推進交付金事業について説明させていただき、みなさまからご意見と評価を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

座長及び副座長の選任

<企画課長>

新たに座長及び副座長の選任をさせていただく必要があります。委員の皆様方の中から互選となっておりますが、いかがでしょうか。皆様からの異論がなければ事務局案として座長に岐阜大学の小林様、副座長に東海化成工業の黒田さまにお願いしたいと思います。

※異論の声なし

それでは事務局案を採用いただき、座長に小林様、副座長に黒田様に就任いただきます。座長及び副座長の就任に伴いまして、ご挨拶をお願いいたします。

<座長>

前回に引き続き座長を務めさせていただきます。また2年間よろしく願いいたします。

<副座長>

7月から社内で社会貢献推進室に異動し、残された会社員生活を御嵩町含め地域貢献に努めていく所存ですので、座長と共に頑張らせていただきます。よろしく願いいたします。

議題

(1) 地方創生加速化交付金事業の評価

<座長>

- ・次第に従って議事を進めていきます。地方創生加速化交付金事業について、事務局より説明をいたしますが、各計画単位で全体を通じて地方創生に有効であったかという視点で事業評価をお願いいたします。

<事務局>

- ・資料1 地方創生加速化交付金実施事業報告及び資料2 地方創生加速化交付金 K P I 達成状況一覧とお手元にありますタブレットの両方を見てくださいながら説明を進めてまいります。

※説明概要中略

1 学校・地域・企業連携によるみらいの人材育成推進事業について

<委員A>

・農業体験について、実際に体験していただいて参加者からいい経験をしたと声をいただいたが、実施した側として外からの視点が入ることで新たに事業者としても気づかされたこともあり得るものがあった。K P Iに直接影響するものではないかもしれないが、参加者の方々が地元の方々と交流することや実施者側として新たな視点に気づかされたことは、数字で図ることができないものとして得ることができ、大変よい事業であったと思う。御嵩町内部の方へのフィードバックも考慮していけるとさらに良いと思う。

<委員B>

・農業体験については兵庫県、東京都、千葉県、愛知県から参加されたようであるが、募集についてはどのように行ったのか。

<委員A>

・募集についても当方で委託されていた。基本的にSNS等を通じて募集したが、いい機会だからと旧来の知人からの応募がほとんどであった。

<委員B>

・過疎地域の自治体では危機感をもって自治体が都市圏に出かけて「是非わが町へ」といった具体的な呼びかけをしているが、御嵩町についてはそこまで深刻な印象を受けない。どこまで行っていこうと考えているのか。

<企画課長>

・担当事業課において平成28年度事業を踏まえて検討事項を洗い出しながら深化させていかなければならない。できることから順次行っていく予定としている。

<委員B>

・体験型農業施設を作るだけでは、いきなりわが町へ来てくれと言われても都会の若者等は不安や戸惑いを見せるのではないか。セミナーや説明会を行うことからスタートし、先に地元との関わり合いを深めていくことが必要があって、その後に施設利用されるのが一般的のようである。

<企画課長>

・最終的には移住につなげていきたいと考えている。体験施設整備からスタートし、お試しということでやっていきたい。地域の協力と理解を得ながらやっていきたい。

<総務部長>

・やはり地域が受け入れていただけないと、長く居ついて農業体験を行っていただけないことが分かってきた。美佐野や津橋のような地域の方々と役場職員とが話し合いをしている中でも地域のお祭りごとにも参加していただきたいとの声もあった。そんな中から地域の空き家を活用していこうという経緯があった。まずは取り掛かりとして農政の分野から皮切りをしていこうとして今回の事業実施となった。

<委員A>

・意見交換会に参加したが、地域の方々がついていけない部分があったと思う。ワークショップという新しい形式で行ったこともあって、役場の考えが理解できていない部分があったかもしれない。これから先、もっと役場と地元の方々との意見交換の場が増えたらいいと思う。

<総務部長>

・議会の中でも荒廃農地について話は出てくるが、新しい手法を取り入れていかないと荒廃農地は減っていかないと議論もしてきた。地元の方々の思いがそれぞれ違うとは思いますが、行政としては荒廃地を放置することはできない。想定範囲内ではあったが、地元の方々と行政の考えとでは相当ギャップがあったと思う。

<委員A>

・実際に舮五山茶の携わって見たが、皆さん後継者不足であると悩んでみえる。これを解決するためには共通のビジョンが必要であると感じた。体験型農業施設についても同様のことが言えるが、参加者する側も明確なビジョンが必要である。募集する際にも募集方法についても工夫する必要があるが、後継者不足という明確なビジョンを打ち出して、参加する側と応募する側のマッチングを図る必要があると感じる。

・農業体験のような単発的なものとは違って、移住ということになれば、農村に身を投じた後の

生活をどう維持していくかというこれから先のストーリーを描きにくいことがハードルとなっていると思われる。

<総務部長>

- ・何が困っていて、何を手伝ってほしいかまずもって明確にしていく必要があるのは間違いない。
- ・マイナス面を表に出すことから始めたい。

<座長>

- ・今後の事業展開についてはより明確なビジョンを打ち出していただき、事業の発展を図っていただきたい。

<委員C>

- ・舩五山茶についてデザインという領域で携わったが、調べていくうちに魅力ある財産であるということを感じた。しかし、地元の方々にとっては当たり前のものであって、本来持っている魅力を気づいていただきたいという気持ちを込めて冊子等を作らせていただいた。御嵩あかでんランドもそうだが、外へはアピールしていることはわかるが、内へのアピールも大切であると感じた。なかなか数値化できないかもしれないが、内側からの基盤を整えないと継続性は失われてしまう。町民の方々が町外へ出たときにより自信をもってアピールできる体制づくりを今後行っていただきたい。

<委員D>

- ・数人の生徒さんとしか関わりを持つことができていないが、毎年キャリア教育事業に協力させていただいている。高校生の方々からしてみれば工場の中を見ることができいいチャンスであるとは思っている。当方からしてみると三年生の生徒さんは就職に直結すると思うが、キャリア教育では一年生の生徒さんがおみえになる。就職という分野からすると少々ギャップが生まれているように感じる。毎年他校からはハローワークと協働で40～50名の二年生の生徒さんが工場見学として観光バスでお見えになる。一年生で終わることなく、二年生も続けて行っていただくことでさらに興味が増すと思われる。

<座長>

- ・学校の先生の印象はどうだったか。先生から生徒へ伝えると企業の情報や大学へ進学する際の学校の情報も伝わりやすいこともあると思うがいかがか。

<委員D>

- ・当方では卒業生の従業員の声を聴いてもらうようにしている。生の声を聴くことで先生方も具体的にイメージしていただけたらと思って実施している。
- ・東濃高校の生徒を対象としてキャリア教育を実施されたが、K P Iの工業団地従業員の町内居住割合について、毎年東濃高校から数人採用しているが、町外住所の方がほとんどで、東濃高校の在校生だけでみると全体で1割～2割程度であって、設定されているK P Iと一部かけ離れている部分があると思われる。工業団地の会社からするとハローワークが多治見市まで行かないと無い。出張所のようなものがあるとまた状況が変わってくるかもしれないと思う。

【評価】有効であった。

2 地域資源を活用した観光誘客推進事業について

<座長>

- ・宿泊施設がないということが最もネックになっているということか。

<委員B>

- ・民泊の規制も緩和されてきている。やろうと思えばいくらでもできるのではないか。

<座長>

- ・駅前願興寺において、外国人がごろ寝できるようなものがあっても一風変わった面白い体験をしてもらえるかもしれない。

<委員A>

- ・観光するにしてもやはり拠点は欲しい。最近とある島にいつてきたが、大したものであるわけ

ではない。だが、満足感を得られたのはおいしいものや、腰を据えることができるような施設があったからだと思う。拠点になるようなところがあったからその島へ足を伸ばすことができた。

<座長>

- ・やはり足を止めることができる拠点は御嵩町に欲しいと思われる。

<委員D>

- ・観光基本計画について、検索サイトの地図を眺めていると御嵩町はゴルフ場が多くあると思われる。観光とは違う視点かもしれないが、御嵩の特産品であるみたけのええもんを置かせてもらう等も考えられないだろうか。

<総務部長>

- ・町外の方が多く利用されると思うので、目につきやすくなると思われる。

<委員D>

- ・手数料等がかかるかもしれないが、販売としてはいいチャンスではないかと思われる。
- ・御嵩町内には町であるのに2つの県立高校があり、複数のゴルフ場があるというのはすごいことだと思う。

<座長>

- ・首都圏のプロモーションも大切だが、地元から攻めていく必要もある。

【評価】有効であった。

3. その他

<委員B>

- ・ロボコン等を含めた外部人材育成事業は地方創生にとって非常によい取り組みであると思われる。しかし、多くは委託事業であって、首都圏の業者が儲けるような形になってように感じる。地元で知識、経験を持った方々がもっといらっしやと思うが、地元の方々を活かしていくべきと思う。

<座長>

- ・一年目ということもあり、これから先もっとより良い形になっていければと思う。

4. 地方創生推進交付金事業の報告

<座長>

- ・事務局より説明をお願いします。

<事務局>

※説明概要中略

<委員A>

- ・クラウドファンディングについて方向性を見直したらどうかと思う。目的と手段が逆になっているように感じてしまった。本来目的を達成するための手段であるものが、仕事を生み出すためのものになっているように感じられる。方向性を少し変えてみてはいかがかと思う。支援施策を打ち出してからその後の一手段として考えてみてはどうかと思う。

<座長>

- ・KPIが設定されている中でわいわい館の売上げ増と設定されているが、ネット販売については含まれているのか。また、首都圏プロモーションにおける販売も含めた目標設定なのか。

<企画調整係長>

- ・ネット販売分は除いているが、首都圏プロモーションにおける販売は含めて考えており、客観的に把握することができるものを設定している。

<委員C>

- ・K P I を達成することが第一なのか。

<座長>

- ・難しいところではあると思う。本来であればまちの活性化が一番の目標であるが、この交付金の性質上K P I の達成は必要なものである。

<委員C>

- ・わいわい館の入館者数を増やすことについて、直接この事業項目に含まれていないと感じる。例えば、初めて御嵩駅に来た方は、わいわい館があるということに気づかれることが少ないと思う。直接的な事業を考えて行ってもいいのではないかと感じた。この計画に基づいた事業のほかに独自に事業を行っていくことも必要ではないかと思う。難しいこともあるだろうが、是非成功させてほしい。

<企画課長>

- ・わいわい館は一つのツールとして捉えていただきたい。指標や年間売り上げも必要だが、交流人口や移住定住数を増やしていく中で一拠点として数字では表せないものを大切にしていきたいとして掲げさせていただいている。数字では表せない地域の方々の思いや御嵩町の良さを広めていきたい。

閉会あいさつ

<企画課長>

- ・本日は長時間にわたりご議論いただきありがとうございました。

以上